



日本筆記具工業会

〒116-0013

東京都荒川区西日暮里2-30-6

TEL03-3891-6161 FAX03-3892-9692

発行：日本筆記具工業会 調査研究広報委員会

URL <http://www.jwima.org>

「書くことの楽しさを伝える」 商品の提供と活動の推進を行ってまいります 日本筆記具工業会会長 堀江圭馬



あけましておめでとうございます。

平成23年の新春を皆様と共に迎えることができましたことを、心よりお慶び申し上げます。会長に就任して早いもので1年半が経ちましたが、関係各位のご理解ご協力のお陰で、つつがなく2度目の新年を迎えられましたことに感謝申し上げます。

世界経済がリーマンショックの影響で依然厳しい状況にある中、日本経済は一部の業種が回復基調にあるという報道がなされています。私たち筆記具業界も2010年9月迄の統計を見ると、国内生産は前年同期比、数量で14%増、金額で12%増と伸びているというデータが出て参ります。輸出も金額で15%伸びています。

一時期、日本の産業のガラパゴス化（孤立進化）が問題であると言われていましたが、筆記具の場合は日本市場の独自性がプラスに働いていると思われまます。またエコマークやグリーン購入法などのおかげで、市場の健全性が保たれていることも大きいと思ひます。

そのような中であって、筆記具工業会としては、3年前から手書き文化の大切さを伝えるために、書育の啓発活動に注力しています。そして昨年は2月に発足した書育推進協議会とタイアップして、書育教材の開発に取り組み完成させました。教材の発行部数とHPからのダウンロード数から推定すると、全国から約1,000件のアクセスがあり、「書育教材」が活用されています。ICT（情報通信技術）の急速な普及の中であって、多くの児童・生徒に、書く楽しさを伝え、コミュニケーション力や創造力、学習力を育む力に少なからず貢献できたのではないかと自負しております。

また、新「学習指導要領」に則った授業が、小学校では今年から、中学校では来年から実施されることになっています。新「学習指導要領」は“生きる力を育む”を基本理念としており、具体的には、各教科の学力を高める為に、思考活動などを促進する「書くこと」を積極的に授業に取り入れるとしています。そして、その趣旨を実現するためには、実生活や学習場面に役立つよう書写指導の内容や指導のあり方の改善を図るとして、鉛筆やマーキングペン、ボールペン、毛筆、筆ペンなど多様な筆記具を使って文字を書くことを指導することが記されています。

書育推進協議会は全国の教育委員会に働きかけを行ない、「書育教材」のますますの普及と「書くことの楽しさを伝える」活動を推進していく所存です。

本年も、工業会の皆様、業界の皆様と共に、筆記具業界を発展させるための諸活動を行って参りたいと存じます。より一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げ、新春のご挨拶といたします。

JWIMA 講演会開催 講師は松永真理さん

テーマ「感性をカタチに、iモード開発の事例から」

12月1日(水)「JWIMA講演会」を上野精養軒で実施しました。講師は松永真理さん。リクルートに入社して「とらばーゆ」編集長を経て、NTTドコモで「iモード」事業をみごと軌道に乗せ、米フォーチュン誌の「ビジネス界最強の女性ランキング(2000)」のアジア部門1位にランクされたスーパーレディー。現在はバンダイ社外取締役役に就任されている他、NTTドコモ・アドバイザー、政府税制調査委員、NHK放送文化研究委員等に就任されています。講習会のテーマは、「感性をカタチに、iモード開発の事例から」。松永さん著のベストセラー「iモード事件」(角川書店)等から多数のエピソードを紹介くださいました。



<講演抜粋>

リクルート時代は「夜が明けるまでに帰ろうね」と声をかけ合って皆とハードな仕事をしていた。ところが、NTTドコモのゲートウェイビジネス部企画室長に招かれて「iモード」の立ち上



げの仕事に就くと、NTTの社員は定時に退社してしまう。これでは新しいものは生まれてこないと思って、別棟に小さい部屋を借りてもらった。ここで「iモード」は誕生したのだが、「場を変える」ということは本当に大切だ。組織内で新しいものを創りたいなら、同じ釜の飯という縁を断ち切らなければ生まれない。このような猛烈なプロジェクトの中から「iモード」は誕生したのだが、私は最後にとろけるような達成感を味わった。新しいものが生まれるとき、体温が上がる。知恵熱なのか、人との摩擦熱なのか、とにかく熱くなる。やる気のない若者を批判する声もあるが、リーダーがテーマやゴールを示せば、彼らの目の色は変わる。

<松永真理さん主著>

『なぜ仕事するの?』講談社 1994年
『iモード事件』角川書店 2000年
『iモード以前』岩波書店 2002年
『シゴトのココロ』小学館 2004年



松永真理さんを囲んで、出席した役員と会員で記念撮影

JWIMA 年末懇親会開催

第2部 12月1日午後6時から 上野精養軒にて

講演会に続き、会場を改め年末懇親会を開催しました。

来賓に経済産業省日用品室様、(財)日本文化用品安全試験所様、(社)全日本文具協会様をお迎えしました。会員に馴染みの文具専門紙誌様も多数取材に訪れ、ご講演くださった松永真理さんもお迎えして会場は華やぎました。

開会の挨拶で堀江圭馬会長は、「筆記具の直近の出荷金額をみると約12%増、輸出金額も約15%増と持ち直している（同期比）。リーマンショック前の水準には届いていないが、復調の傾向がみられる。（松永真理さんが立ち上げ

た）iモードは日本独自のものである。筆記具も日本独自の価値創造で市場を開拓している」と我が産業界を高らかに誇りました。

続いて、経済産業省 製造産業局日用品室様より来賓を代表してご祝辞をいただき、数原英一郎副会長による乾杯の音頭で懇親を深めました。

にぎわう中、松永真理さんのサイン本が頂ける抽選発表があり、会はいっそう盛況に。

石川真一副会長の中締めで、一年の労をねぎらい、工業会のますますの発展を祈念しつつ、散会しました。



開会の挨拶をする堀江会長



乾杯の発声をする数原副会長



中締めの挨拶をする石川副会長

恒例 優良工場見学会 11.17実施

JAXA、筑波ハム、国土地理院を見学

【報告】

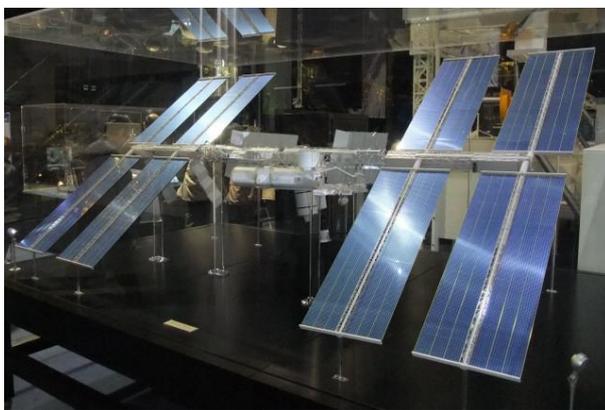
11月17日(水)、本工業会と日本鉛筆工業協同組合との共催で、秋恒例の「優良工場見学会」を実施しました。今回は22名もの参加がありました。

見学先は宇宙航空研究開発機構(JAXA)「筑波宇宙センター」(写真右上)。これまでの宇宙開発の歴史や国際宇宙ステーションの説明を受け、展示室では実物大の衛星や国際宇宙ステーションの室内、歴代のロケット等を見学しました。小惑星「イトカワ」から砂を持ち帰った話題の「はやぶさ」は、巡回中であいにく展示されていませんでしたが、月探査機「かぐや」のハイビジョン映像は美しく神秘的で、一行を魅了しました。

次の見学先の筑波ハムレストラン「自然味工房」で昼食をとり、筑波ハムの製造工程を見学しました。売店で筑波ハムをお土産にする会員もいました。

3つ目の見学先は国土地理院「地図と測量の科学館」(写真右下)。現在の地図の作成方法や災害時に利用される地図について学んだ後、古地図や特殊利用図の見学、眼鏡をかけての立体地図等を楽しみました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、会員同士の交流を深めることができた見学会でした。



JWIMA REACH・CLP研修会の報告

塩井恵子 製品安全小委員会 部長

平成22年11月の製品安全小委員会でEUのCLP届出が問題となりました。23年1月3日までに届出が必要という情報がありましたが対応が必要かどうか分からず、早急に専門家の話を伺うこととなりました。12月10日の研修会には60名を超える出席者があり、(社)日本化学工業協会の長谷川講師から、特にCLP規則の問題に重点を置きながらも、アメリカやアジアまで広く化学物質管理の国際動向を学びました。

まず、化学物質管理の国際的な流れがあり、リスク管理の導入とサプライチェーン全体での管理がキーワード



であること、その流れに沿って各国が独自に法規制を充実させていることを知りました。EUが先行しているためCLP規則のような新たな取組みにとまどいますが、形は変えても各国に導入されていくので、今回の資料は

今後役に立つと思います。CLP(分類、表示と包装に関する規則)について最後にまとめておきます。



- ・EUの製造者・輸入者のみが届出できる。
 - ・輸入者を1社選び、そこにだけ届出に必要な情報を送ることもできる(グループ届出)。
 - ・届出の対象は、REACH登録が必要なもの(年1トン以上)、及び、混合物を有害と判定させる起因物質(量のすそ切りなし)
 - ・平成22年12月1日までにEUに上市されているものは、23年1月3日が登録期限でした。今後は、上市后1ヶ月以内に届出が必要となります。
- 詳細は、講師にいただいた資料をよく読んでいただくをお願いします。

(研修会資料をご希望の方は、事務局までお申し出ください。)

●分類・表示の届出物質と内容等

以下の物質を EU 域内で製造、又は EU に輸入する者は、CLP 規則に従った危険有害性の分類・表示結果を ECHA に届け出る義務があります。

・REACH 登録対象物質 (REACH 登録の一部として分類結果が ECHA へ提出される物質、既に分類・表示の届出が行われている物質は除く) ; 又は

・CLP 規則に従い危険有害性があると分類される物質、又は混合物中に濃度限度を超えて含まれる危険有害性物質

ECHA への届出の内容は以下のとおりです。

<届出の内容>

- (a) 届出者の所属、連絡先
- (b) 物質の名称・CAS 番号等
- (c) 物質の分類
- (d) 未分類の危険有害性区分がある場合、“データがない”、“信頼できるデータがない”、あるいは“信頼できるデータから分類に該当しない”のいずれかを示す。
- (e) 該当する場合、固有の濃度限界値又は M-ファクター
- (f) ラベル要素 : 絵表示 (Pictogram)、注意喚起語 (Signal Word)、危険有害性情報 (Hazard Statement)

CLP 規則による化学品の危険・有害性の分類

危険有害性項目

物理化学的危険性	人健康有害性
1. 火薬類	1. 急性毒性
2. 可燃性・引火性ガス	2. 皮膚腐食性・刺激性
3. 可燃性・引火性エアゾール	3. 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性
4. 支燃性・酸化性ガス	4. 呼吸器感受性と皮膚感受性
5. 高圧ガス	5. 生殖細胞変異原性
6. 引火性液体	6. 発がん性
7. 可燃性個体	7. 生殖毒性
8. 自己反応性化学品	8. 特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)
9. 自然発火性液体	9. 特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)
10. 自然発火性固体	10. 吸引性呼吸器有害性
11. 自己発熱性化学品	
12. 水反応可燃性化学品	環境有害性
13. 酸化性液体	1. 水生環境急性有害性
14. 酸化性固体	2. 水生環境慢性有害性
15. 有機酸化物	3. オゾン層に対する有害性
16. 金属腐食性物質	

第4回 JWIMA技術交流会 開催決定！6月20日(月) 会員外の見学招待も検討中

会員同士のビジネス交流をいっそう活発にしたいとの目的で平成20年にスタートしたJWIMA技術交流会。本年度で第4回目を迎えることとなりました。

会場アンケートで、「良かった」「毎年開催してほしい」という回答が圧倒的多数を占め、技術交流はますます盛んになっています。

見学に訪れた企業の目的は、「新製品開発やコストダウンのための情報収集」、「原材料に関する知識向上」、「出展企業との交流」など。自社の競争力強化のための弛まぬ努力がにじみ出ています。

見学者からの要望として、かねてから「出展企業を増やしてほしい」、出展社からも「いろいろな会社に来てほしい」との声が聞かれました。そこで次期第4回技術交流会では会員外の企業にも案内してみようと、推進委員会である調査研究・広報委員会では、「招待者」の検討を行っています。

このイベントでいろいろなビジネス交流が生まれ、多くの新製品や生産革新が生まれることを期待しています。会員の皆様のご参加をお待ち申し上げております。



※写真は、第3回技術交流会風景



**第4回 JWIMA技術交流会 =予告=
平成23年6月20日(月) 13:30~16:00**
会場 浅草橋 共和フォーラム 2F
受付 13:00~ / オープニング 13:30~13:40
見学 13:40~16:00
参加 無料

22年度第4四半期委員会活動報告 (2010.11.1~12.31)

<総務 関係>

- 1 1.1 0 書育推進協議会運営委員会
 ・書育実践大賞告知方法ならびにその費用について
 ・長崎大学「書育&音育」イベント準備の経過報告
 ・書育推進協議会HPについて
 ・書育実践研究会活動報告
- 1 1.2 4 総務委員会(平成22年度 第4回)
 ・秋~年末の行事について
 会員研修会、優良工場見学会、年末講演会・懇親会
 ・定款の一部変更について
 ・次期役員改選について
 ・「書育」活動報告について
- 1 2.1 3 書育推進協議会運営委員会
 ・長崎大学「書育&音育」について
 ・書育実践大賞について
 ・書育実践研究会について
 ・書育推進協議会HPについて、他

<調査研究・広報 関係>

- 1 2.2 2 調査研究・広報委員会
 (22年度第2回)
 ・「万年筆」お役立ち情報について
 ・次期JWIMA技術交流会について

<流通 関係>

- 1 1.1 1 お客様相談窓口連絡会
 (22年度第3回)
 ・各社のお客様対応事例について
 ・お役立ち情報(マーキングペン編)の見直しについて
- 1 2.8 流通委員会(22年度第1回)
 ・2010カタログ実態調査集計報告について
 ・お客様相談窓口連絡会活動状況報告について
 ・「書育」活動の経過報告、他

<技術国際 関係>

- 1 1.2 鉛筆・シャープペンシル合同部会
 (22年度 第1回)
 ・新レコード式画線機の部品廃止問題について
 ・その他
- 1 1.1 0 (株)デイシーとの打ち合わせ
 ・新レコード式画線機の部品廃止に関する対応協議

- 1 1.1 8 製品安全小委員会(22年度第3回)
 ・筆記具安全基準ならびに解説について
 ・EWIMA技術委員会出張報告
 ・安全関連情報について、他
- 1 2.3 事務用修正液部会(22年度第3回)
 ・JIS S 6055(事務用修正液)の見直しについて
 ・修正テープ規格化の検討、他
- 1 2.1 0 ISO活動方針打ち合わせ
 ・BS 7272-1,-2(キャップの安全要件)
 → ISO化への対応について
- 1 2.2 1 鉛筆・シャープペンシル合同部会
 (22年度 第2回)
 ・新レコード式画線機の部品廃止について
 ・しん濃度測定器について、他

<全文協との共催 関係>

- 1 1.3 0 知財リーダー会議

お知らせ

■「第10回通常総会」は5月16日(月)午後5時から上野精養軒にて開催します。例年のとおり総会終了後に懇親会を実施します。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

■「2009年ドイツの筆記具統計」を12月に刊行しました。会員各社には1部ずつ送付いたしましたが、部数に余裕がありますのでご希望の方は事務局へお申し出ください。(09年中国貿易統計、09年アメリカ貿易統計も在庫が多少あります。ご希望の方は事務局まで。)

■第4回「JWIMA技術交流会」
 会期 平成23年6月20日(月)
 会場 浅草橋・共和フォーラム2F
 (旧 共和会館)
 受付 13:00~
 オープニング 13:30~13:40
 見学 13:40~16:00

書育推進協議会も協賛

教育フォーラム「長崎大学 書育&音育」12/22・23実施

【報告】

手紙やノートを書くことを大切に、「伝え合う力（コミュニケーション力）」を高めようと提唱する市民参加の第一回教育フォーラム「長崎大学 書育&音育」（右シンボル）が12月22・23日、長崎大学で開催されました。主催は長崎大学。協賛は書育推進協議会他。後援は長崎県教育委員会、長崎市教育委員会、諫早市教育委員会、長与町教育委員会、時津町教育委員会他。本工業会も書育推進協議会を通じて筆記具等を提供して協力しました。



「年賀状を書こう」

22日は、国立教育政策研究所 学力調査官・教育課程調査官 杉本直美先生を招き、「一年の初めに、心に届けたい言葉を添えて、年賀状を書こう」を一般公開授業として実施しました。学習者は長崎大学附属小学校6年生でした。最初に「届けたい相手に応じて書き出しの言葉を選ぶ（例：あけましておめでとうございます）。次に「届ける相手に添えたい一言を考える」。そして、



「さまざまな筆記具の中から最適なものを選んで下書きを行う」。まとめて、「なぜ、この言葉を選び、この筆記具を選んで

工夫した点は何か」などを発表し合いました。

本工業会は、会員各位から募ったマーカー、水性マーカーペン、ペン習字ペン、サインペン、ボールペン等を提供しました。この授業は、翌23年度から完全実施される小学校学習指導要領第5・6学年の指導事項「目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書く」に対応する授業事例です。

講演「ノートの力」

翌23日は、京都女子大学 発達教育学部教授、京都女子大学附属小学校校長の吉永幸司先生を招き、「ノートの力 ～『ノート検定』実践を踏まえて～」を保護者、教育関係者、大学生を対象に講演いただきました。「ノートのうまい子は、おしなべて成績がよい」といった教師経験を踏まえた先生の講演は、説得力のある内容でした。

「実力アップのノートづくり」

23日第二部は、黑板をノートになぞらえて、模範となる板書をする事で評価の高い、京都女子大学附属小学校の砂崎美由紀先生がワークショップ「実力アップのノートづくり」を実施しました。学習者は公募した小学校3年生以上のお子さんとその保護者です。砂崎先生は詩集「のはらうた」（工藤直子作）の中から「おれはかまきり」を題材に、見事な楷書と行間で黑板書きし、ノートづくりを指導。さらに詩「おれはかまきり」を祇園言葉、長崎の方言などに展開して音読するなどして、楽しく実のある授業を展開しました。このワークショップでも本工業会は、えんぴつ、三色ボールペン、消しゴム等を提供しました。



【教育フォーラム開催の目的】

長崎大学 書育&音育実行委員長
鈴木慶子長崎大学教授（教育学部初等教育講座）
「人が豊かに生活する上で、『書く』ことをおろそかにすることはできない。『書く』ことは、思索すること、そのものであるからだ。私たちは、ネット社会及び情報機器の普及によって生み出される利便性や可能性と共存しつつ、ネット社会においても、そのコミュニケーション力は『書く』ことによって養われる言語力に依拠している現実を踏まえ、人が人間らしく豊かに生きていくためのコミュニケーション力を育む学校教育及び社会教育に取り組んでいくことが求められている。」